

研修報告書 No.17

所 属： 昭和大学病院

研修先： 土佐市民病院

2024年12月2日から12月27日までの1か月間、土佐市立土佐市民病院で地域医療研修を行いましたので、意見や感想を含めてここに報告します。

私は高知県に足を踏み入れたことがなく、見知らぬ土地での研修に不安を感じていました。しかし、高知県には美しい自然や食文化、豊かな歴史があり、さらにはおおらかで親切な方が多く、高知県での生活に慣れるのにさほど時間はかかりませんでした。そのような環境の中で今回、地域の医療を支える中核病院である土佐市民病院で、普段の研修では得られない経験をすることができました。

本研修では、一般内科外来・外科外来・救急外来・病棟管理など様々な業務を行いました。その中でも特に印象深かったのは一般内科外来での経験です。そこでは自らが外来を持ち、主体的に診療を行うものでした。自分の所属する研修病院では外来診療を一人で担当する機会が多くなかったため、初めはどのように診療を進めればよいか要領を得ず、上級医の先生方や看護師や事務の皆さんに何度も相談をし、迷惑をかけてしまいました。それでも先生方や医療スタッフの方が優しく丁寧に助言してくださったおかげで、次第に自信をもって診療にあたることができました。限られた時間内で医療面接や診察を行い、診断や治療方針の決定するのは苦労しましたが、これら一連のプロセスを通して、医学的な知識はもちろんのこと医師としての判断力や患者対応能力を向上させ、成長することができました。その他にも入院の方針となった患者さんやそのご家族への説明も自分の言葉で行えたことも大きな学びとなり非常に良い経験となりました。

一方で、研修をしていくにつれて地域特有の医療課題にも直面しました。医療の偏在、高齢化や交通・アクセスの問題などが顕在化しており、特に印象に残ったものは、90歳代の高齢者の患者さんが自家用車で外来へ通院されていたことで、この患者さんだけでなく、多くの高齢者の方が自家用車で通院していました。このような状況はこれまで研修を行っていた神奈川県ではあまり経験がなく地域医療の問題として肌で感じました。中山間地域の多い高知県では交通手段の不足や医療の偏在のために高齢者の方が運転をせざるを得ないような現状があることを知り、訪問医療や遠隔診療の拡充、地域連携ネットワークの構築といった取り組みの必要性を痛感しました。

また、こうした現状を明確に伝え課題として共有することも重要であると考えています。私も1人の医師としてこの研修で得ることができた地域医療に対する学びや視点を今後の診療に活かし、地域医療に貢献していくことができればと思いました。

こうした外来経験や地域課題に対する気づきを得られたのも周りの医療スタッフの方々

の協力があったと考えております。土佐市民病院の医療スタッフは全員優しく、研修期間中に皆様には何度も助けていただきました。上級医や看護師をはじめとする多職種の方々が暖かいサポートをくださったおかげで安心して研修を進めることができ、大きな心の支えとなりました。また、業務的なことだけではなく高知県での過ごし方や観光地を教えてください、休日も楽しく過ごすことができました。

このように土佐市民病院での 1 か月間の研修は、私が医師として視野を広げるためだけではなく高知県の皆さんのやさしさに触れることのできる大変貴重で有意義なものでした。最後になりますが、土佐市民病院のスタッフの方々、地域医療研修を支えてくださった高知医療再生機構の方々、関わってくださったすべての方に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。